

(3) 令和6年度の学校評価

本年度の 重点目標 (評価項目)	①	キャリア教育の推進		
	②	安全・安心な学校づくり		
	③	授業力・専門性の向上		
	④	豊かな心と健やかな体の育成		
	⑤	授業・行事の充実		
	⑥	センター的機能の充実と理解促進		
	⑦	開かれた学校づくり		
自己評価				
担当	評価項目	目標・具体的方策	評価	結果と課題
幼 小 学 部	⑤	・周りの友達と協力して活動する態度を養うための指導の内容や在り方を工夫する。	A	・体育祭、野外活動、遊びタイム、クラブ活動などでは、幼児児童同士、協力する場面が見られた。 また、高学年の児童が、幼児や児童へ優しく声をかけたり、手伝おうとしたりする様子も見られた。 ・学校間交流、居住地校交流でも、名前を呼んだり、好きなことを紹介したりするなど、積極的に他者と関わろうとする様子が見られた。 ・校外学習、白杖マラソン等で校外の方と関わる機会を設けることで、多くの人と関わる事ができた。
中 学 部	①	・生徒一人一人のニーズや実態に応じ、進路指導や行事に取り組み、キャリア教育の充実を図る。	A	・生徒がチェックシートを活用し、自分の課題を理解し問題意識をもち、具体的な目標を立て活動に取り組めた。 ・2学期に、中間評価としてチェックシートを確認し、目標の達成状況や自己の成長を評価し、前半の振り返りを行う機会を設けた。 ・2学期までの生活アンケートの結果では、学校生活にやりがいを感じている生徒が少数であった。しかし、3学期のアンケート結果では、各種大会や検定で成果を出せた生徒が多数であったため、学校生活に責任感とやりがいを感じている生徒がほとんどとなった。
高 等 部	① ⑤	・将来必要となるコミュニケーション力及び心身のコントロール方法の向上を目指す。 ・主体的に対話的な学習の充実を目指す。	A	・生徒一人一人の実態や希望進路に合わせ、担任を中心に関係職員が連携して必要な支援を丁寧に行った。特に精神面へのサポートが必要な生徒には想定される事項を予測して対応し、日々変化する生徒の心理状況を職員間で共有し、一貫した支援を心がけた。 ・浜松視覚特別支援学校と国語表現及び英語コミュニケーションのオンライン合同授業を定期的実施することができた。また、新たに三重県立盲学校とオンライン交流をすることができた。今年度の反省を生かし、来年も継続していきたい。
総 務	⑥	・岡崎盲学校の魅力や特色がより伝わるような学校要覧を作成する。	A	・写真のテーマをあらかじめ検討することができた。 ・写真以外の情報について検討し、シンプルに伝わりやすい表現に変更できた。 ・ハートフルっ子展の担当と連携し、よい写真を選定することができた。 ・テーマの検討を5月ぐらいの早い段階でできると年度前半の行事の写真もよりテーマに沿ったものを準備できる。
教 務	③	・今年度(令和6年度)から実施する学習評価の2期制を円滑に進める。 ・「教務の手引き」をもとに、教務関係諸表簿の作成等が円滑に進められるようにする。	B	・夏季休業中を活用し、幼児児童生徒のよさや課題を確認して今後の手だての改善を考えるなど、PDCAサイクルを確立して前期・後期の学習評価を実施することができた。 ・「教務の手引き」を活用しやすいうに、年度初めの職員会議で説明したり、諸表簿作成時に該当ページを職員に示したりするなどしたことで、円滑に進めることができた。 ・年度初めに、部ごとに詳しく説明をする時間を設けるとより職員に分かりやすかった。
	⑤	・教科等横断的な視点に立った教育活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを実現する。	A	・全校で設定した「SDGs」のテーマを基軸にさらに各教科等横断的な視点で授業を組み立てられるように、関連する教科等の授業内容の一覧表を作成し、各クラスと各教科等でグループのテーマ等を共有した。 ・岡盲クエスト発表会に向けて、各発表グループの児童生徒が主体的、対話的に取組を進めることができた。

生徒指導	⑤	・児童会、生徒会活動の在り方を見直し、幼稚部から高等部までつながりのある一貫した指導に努める。	A	・中学部、高等部の生徒会活動の合同に向けて、生徒及び職員の意見を聞きながら合理的に検討を進めることができた。また、児童生徒の過度な負担とならないように児童会、生徒会の活動内容を見直すことができた。今後は活動内容の充実とともに児童会と生徒会の連携をより意識した活動を検討していきたい。
進路指導	①	・外部関係機関と連携しながら進路指導に関する教員研修を行い、進路指導の向上を図る。 ・本人、保護者と教員間で、希望進路に対する課題等を共通認識し、進路実現に向けて実習に取り組む。 ・福祉関係者や社会一般に、視覚障害者の情報について広報し、障害の理解を求める。	A	・進路指導に関する現職研修では、地域の外部関係機関と連携して研修を行った。研修後のアンケートにおいて、おおむね進路指導に関する知識が深まったとする評価が多かった。 ・中学部、高等部の生徒、保護者に進路相談を行い、各家庭の思いや考え方の具体的な把握に努めた。相談を重ねることで、希望進路に対する課題を共通認識することができた。 ・各市町の社会福祉協議会やハローワーク、図書館等に協力を仰ぎながら盲学校の広報を進めてきた。今後もさまざまな方法で、視覚障害者の更なる情報発信に努めていきたい。
保健体育	②	・災害時を想定した非常食の整備を行い、緊急時にスムーズに対応できるようにする。	A	・非常食の保管場所について災害時でも安全に取り出せる場所を検討し、中庭倉庫に食料、屋外清掃器具庫（運動場）に生活水を移動・保管することができた。また、物品の量や内容が、一目で分かるように整頓することができた。今後は、実際に使用することを想定した動きをシミュレーションしていきたい。
教育情報	③	・学校が保有している機器等を職員に紹介し、利用例を示して授業に活用できるようにする。	A	・新転任者講習等で機器の紹介ができ、点字プリンターについては、定期考査問題やプリント作成に活用している。タブレット端末でUDブラウザを利用したPDF版拡大図書については、生徒が利用して授業で必要のある職員に利用を促すことができた。
⑤		・「声の図書館」の行事の内容を見直し、児童生徒の興味ある書籍を自身で読んで録音して放送する等、内容を改善していく。	A	・生徒と職員の朗読を録音し、給食時の放送で流すことができた。運営の仕方について、改善の意見が出ていたところは来年度に向けて検討を進めていきたい。
自立活動	③	・職員のニーズや時代の流れに即した専門性向上研修を計画・実施する。	A	・年5回実施した専門性向上研修では、主に視覚障害教育の専門性に重きをおいた内容を選択制で行うことで、職員のニーズに合わせた研修を行うことができた。また、職員の反省から次年度の内容を検討し、新たな内容を含めた計画を立てることができた。 ・外部講師の研修を取り入れることで、校内だけでは得られない知識や情報を得られる研修を行うことができた。
理療科	③	・第三者評価（指圧）の評価基準・項目について検討する。	A	・生徒が臨床で必要になる力を客観的に評価できるように、評価シートを作成し、教科会で評価項目や採点基準について教員間で共通理解することができた。 ・前期期末考査における評価シートを用いた採点の反省を受け、採点方法が細かく繁雑である点を見直し、基準の曖昧な表現が明確になるように教科会で再検討し、修正を加えた。
寮務部	④	・寄宿舎と学校のつながりを意識することで、舎生を包括的に指導できるようにする。 ・余暇の過ごし方について考える力を育てるようにする。	A	・舎生の生活目標の設定を担任や保護者と連携して作成することができた。また、指導員会で内容を確認し、その記録を関係職員に回覧することによって、包括的に舎生の指導をすることができた。 ・帰舎後に校外へ買い物に出かけたり、運動場や体育館を利用して運動したりするなど余暇活動の充実を図ることができた。

評価	A	十分満足
	B	ほぼ満足
	C	要検討
	D	大幅要検討

学校いじめ基本方針に基づく取組について	児童生徒への生活アンケート(年3回)、教職員への「いじめ防止取組」アンケートにより状況を把握するとともに、気になる回答に対しては担任を中心に迅速に対応した。その結果、学校全体で未然にいじめを防止することができた。人権教育の取組では具体的で分かりやすい内容設定により、児童生徒の意識を高め、幅広い交友関係を築くことができた。
学校関係者評価を実施した主な評価項目	保護者や地域、関係諸機関に対し、授業公開日や行事及びホームページを通して素早く、分かりやすい広報、情報発信に努めた。
自己評価結果について	自己評価結果は、ほぼ満足のいく評価である。保護者アンケートや学校関係者評価委員会での評価とほぼ一致している。
今後の改善方策について	開かれた学校として、保護者や地域の意見を取り入れた学校づくりに取り組むとともに、地域に盲学校を正しく知ってもらう取組を行う。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	盲学校のセンター的機能および地域支援について、通級指導や巡回指導、教育相談等の現状から、すでに関わっているケースはよいが、盲学校とつながっていない子どもたちへの対応もお願いしたい。 盲学校卒業後の就職が難しくなっている。理療は卒業後にすぐ開業することも難しく、先が見えない。新しい職域の情報を集めて広めてもらいたい。一般社会で生き抜く力を身に付けていける支援をお願いしたい。 岡盲だからこそできること(独自性)と公教育との共通性を意識していただきたい。特別支援学校と一般の小中学校との人事交流がないため、「特別支援学校だからよい」とされていることがある。一般の小中学校で今はどのような教育が行われているのかを知っておく必要がある。そういった公教育の側面を理解した上で、岡盲ならではの教育を考えていったほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	PTA会長、同窓会長、地区総代、盲人福祉関係者 大学教員 令和7年2月3日